

モデル地域用

【「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告様式】

(モデル地域名 山形県高島町地域)

I. 地域の概要 (平成15年4月現在)

| | |
|-----------------------------------|------------|
| 高島町地域 (モデル校数: 小学校5校、中学校4校、高等学校1校) | |
| 高島町立高島小学校 | 高島町立第一中学校 |
| 高島町立屋代小学校 | 高島町立第二中学校 |
| 高島町立時沢小学校 | 高島町立第三中学校 |
| 高島町立和田小学校 | 高島町立第四中学校 |
| 高島町立糠野目小学校 | 山形県立高島高等学校 |

II. 平成15年度の実践研究の概要

1. 推進地域の研究の見通しを踏まえて定めた、モデル地域としての現状及び研究の計画・見通し等

(1) モデル地域における「総合的な学習の時間」の現状と問題点

| |
|--|
| <p>研究スタート時の状況・問題点</p> <p>◇各学校の取組状況から</p> <ul style="list-style-type: none">・「総合的な学習の時間」の全体計画が作成されていない学校がほとんどであったため、校内で共通したビジョンが確立されておらず、つきたい力が明確になっていない学校が多かった。・各学年のつながりや教科等との関連があまり意識されていなかった。・教科中心の校内研究になっており、総合的な学習の時間を推進するための話し合いや授業研究の計画的な位置付けがなされていなかった。・特に中学校における総合的な学習の時間の内容や取組に課題が多かった。 <p>◇学校間連携の観点から</p> <ul style="list-style-type: none">・総合的な学習の時間だけの問題ではなく、町内各校での情報交換や小中学校の連携が十分にとられていなかった。・中学校区にある2, 3の小学校と中学校間で「総合的な学習の時間」の履歴について確認する場が少なく、年間計画における連携の視点は明確ではなかった <p>◇地域の教育力活用の観点から</p> <ul style="list-style-type: none">・自然環境に恵まれているものの、「地域を知らない」子どもや教師が多い。・高島町では環境アドバイザー等の人的環境に恵まれているものの、年間計画に位置付けられた活用ではなく、単発の講話等で終わっている場合が多い。・小学校では、地域の素材や人材を生かした展開がなされているところが多く、町の重要施策である「環境にやさしい町づくり」を受け、素材や地域人材にも恵まれた「環境学習」を切り口に「総合的な学習の時間」の見直しと充実を図ることとした。 |
|--|

(2) モデル事業の実践研究について

○ 2年間を通じた研究の計画・見通し

① 解決すべき課題

- ・ 特色ある学校カリキュラムの作成
- ・ 学年間や教科等との関連や学校間の連携
- ・ 価値ある学びの充実
- ・ 地域人材の有効活用

② そのための具体的な取組・方策

- 学習指導研修会での実践発表と学校カリキュラムの充実に向けた提案
- モデル地域での全体研修会・各校の総合の実践発表会の開催（公開）
- 中学校区（4地区）における研究協議会での授業公開と協議
- 環境領域のモデル単元及び展開事例活用の手引き，環境副読本（小学生版），総合ハンドブック（中学生版），事業報告書等による研究成果の発信・普及
- 年間を見通した地域人材（環境アドバイザー）の派遣要請計画立案

③ その取組の時期

- 【1年次】学校カリキュラムの必要性についての研修会（6月），総合的な学習の時間に係る情報提供（通年），環境領域のモデル単元事例集（通年）・総合ハンドブック（中学生版）（3月）の作成
- 【2年次】授業研究協議会（通年で4回），全体研修会（4，8月），学習指導研修会での発表（6月），環境領域のモデル単元事例集の手引き環境副読本・事業報告書等の作成（通年）

○ モデル事業としての取組評価の観点と検証の方法

- (1) 学校カリキュラムで大切にしたい5つのポイントの提示と整備状況の確認
- (2) 授業研究会及び実践発表会での協議と提出資料
- (3) 研究成果物の活用度

2. 平成15年度の取組概要

<●=指導助言・指摘事項 ◇=取組の改善状況>

- 5月 ・ 計画書送付
→●計画書作成段階での全体構想や留意点について（県教育委員会より）
- 6月 ・ モデル地域の決定
- 7月 ・ 第1回研究協議会
→●指導助言体制の確立について（県教育委員会より）
- 8月 ・ 第2回研究協議会（文部科学省 森嶋調査官・堀内係官を招聘）
→●事業の趣旨説明、研究推進についての指導助言（文部科学省より）
→◇2回目以降の研究協議会に毎回県教育委員会指導主事の参加を要請
- 9月 ・ 第3回研究協議会
→●単元展開事例集作成への環境アドバイザー等地域人材の積極的な活用について（県教育委員会より）
- 10月 ・ 第4回研究協議会
→◇4、5、7回目の研究協議会に環境アドバイザーの参加を要請
- 11月 ・ 第5回研究協議会
→●各中学校区内の小中連携の強化について（県教育委員会より）
→●各学校の次年度の早めの年間計画作成について（県教育委員会より）
- 12月 ・ 第6回研究協議会
・ 第1回小中教務主任会
→◇全体計画作成について各学校に周知
・ 第2回小中教務主任会
→◇各中学校区内の連携の視点について協議。今後の話し合いの場を確認
- 1月 ・ 第7回研究協議会（国立教育政策研究所工藤統括研究官を招聘）

- 研究推進や全体計画作成にあたっての確認・指導助言（文科省より）
- ・先進校視察 全国環境教育研究大会（東京）・上越市立大手町小学校（新潟）
 - ◇先進校での全体計画の設定状況把握
- ・「総合的な学習の時間」研究協議会参加（東京）
 - 授業レベルでの実践研究の必要性について（文部科学省より）
 - ◇モデル単元の展開事例集完成、各学校に配布し授業実践に生かす。
- 2月 ・第8回研究協議会
 - ◇来年度の推進計画について確認。
- 3月 →◇中学校「総合的な学習の時間」ハンドブック完成、配布
 - ・中間報告書提出、各モデル校の全体計画提出

3. 平成15年度の成果及び課題

○成果

- ・中学校区において、「総合的な学習の時間」から教育課程編成に関わることまで、小中連携の視点での話し合いにより、共通理解を図ることができた。
- ・月一回の推進委員会では、小・中・高・環境行政・教育行政の連携が図られ、地域素材を生かした環境領域に係るモデル単元づくりや授業での協力体制等について意見交換が進んだ。
- ・中学校向けのハンドブックの作成により、総合的な学習の時間のあり方や可能性について、生徒と教師が話し合う場面が多くなってきた。
- ・各校の総合的な学習の時間の実態把握により、学校カリキュラムの必要性に係る問題提起と情報交流が図られた。
- ・各校における環境アドバイザーを招いた活動が活発となった。

○課題

- ・学校カリキュラムに基づいた授業実践と改善
- ・環境モデル単元や小中高の連携，地域人材の活用に係る各校の年間指導計画への位置付け
- ・高等学校での実践の取り上げ方と小中との連携
- ・推進委員会・学校・環境行政（環境アドバイザー）・教育行政等との一層の連携
- ・モデル単元の具体的な授業場面での実践と振り返り

Ⅲ. 平成16年度の研究実践の概要

○平成15年度の成果と課題を踏まえて

①16年度特に取り組みたい課題

- 学校カリキュラムに基づいた総合的な学習の時間における学びの充実
- 学校間の連携

②そのための具体的な取組・方策

- 町内での全体研修会及び各校の総合の実践発表会での協議
- 学習指導研修会における本事業の啓蒙
- 中学校区における授業研究協議会の公開
- 研究成果物による発信

③その取組の時期

【2年次】○全体研修会（4，8月），実践発表会（1月）

- 学習指導研修会での発表（6月），
- 授業研究協議会（通年で4回）
- 環境領域のモデル単元事例集の手引き・環境副読本・事業報告書等による発信（通年）

(別紙2)

「総合的な学習の時間」モデル事業

山形県高島町推進地域15年度の取組の概要、16年度の計画

| 実施時期 | 取組概要 | 取組のねらい等 (事業の評価の観点も含む) |
|----------|--|---|
| 平成15年6月 | 「総合的な学習の時間」モデル事業 推進地域指定 | |
| 平成15年7月 | 事務局会 ・推進地域の課題把握・計画立案 | 必要に応じて随時事務局会 を開催し、推進委員会の運 営に資する(以下記載略) |
| 平成15年7月 | (モデル地域単位) 第1回推進委員会(全体会合) ・各モデル地域の現状・課題の分析 ・推進地域としての課題設定・計画策 定 | 推進委員会を定例化し(月 1回)、企画立案や推進状 況の把握を行う |
| 平成15年8月 | (推進地区単位) 文部科学省担当者訪問 第2回推進委員会 | 文科省より事業の趣旨説明 や推進に関する総括的な指 導を受ける |
| 平成15年9月 | (モデル地域単位) 第3回推進委員会 ・各学校における「総合的な学習の 時間」の実態調査と把握(1回目) | 各学校の「総合的な学習の 時間」の現状把握と課題の 確認を行う(1回目) |
| 平成15年10月 | (モデル地域単位) 第4回推進委員会 ・環境分野の単元展開事例集作成 (平成16年1月まで継続) | 事例集を作成し、活用する ことで授業実践の推進を図 る(H16年1月完成予定) |
| 平成15年11月 | (モデル地域単位) 第5回推進委員会 ・各学校における「総合的な学習の 時間」の実態調査(2回目) ・単元展開事例集作成 | 各学校に再度実態調査を依 頼(2回目) 年度途中の計画の見直しや、 来年度の全体計画作成に向 けての準備を求める |
| 平成15年12月 | (モデル地域単位) 第6回推進委員会 ・単元展開事例集作成 ・平成16年度「総合的な学習の時 間」全体計画の策定方針決定 (モデル地域単位) 第1回教務主任会 (モデル地域単位) 第2回教務主任会 | 事例集作成にあたっての最 終確認 平成16年度の「総合的な 学習の時間」全体計画の整 備を依頼 中学校区単位での小中の連 携の場や視点の明確化につ いて依頼 |
| 平成16年1月 | (推進地区単位) 文部科学省担当者訪問 第7回推進委員会 ・モデル事業の取組概要と経緯説明 | 文科省よりモデル事業推進 経過や取組状況を説明し、 指導助言を受ける |
| 平成16年2月 | (モデル地域単位) 第8回推進委員会 | 次年度の計画の確認 |
| 平成16年3月 | (モデル地域単位) ・各学校における「総合的な学習の時 間」全体計画提出 ・各学校における中間報告書提出 | 各学校間の連携の視点から、 モデル校の計画を俯瞰し、 指導・助言を行う |
| 平成16年4月 | (モデル地域単位) ・町教職員全体研修会 | 町教職員全員に対して、モ デル事業の趣旨、取組内容 |

| | | |
|----------|--|--|
| | | を周知し、2年目の充実を図る |
| 平成16年5月 | (推進地区単位) ・第9回推進委員会 環境副読本の編集作業開始 | 新年度組織体制の整備 2年目の具体的な取組の時期や方法等についての確認 |
| 平成16年6月 | (モデル地域単位) ・第10回推進委員会 ・学習指導研修会(置賜地区開催)での発表 | 山形県置賜地域の教職員を対象に研究の中間報告をし、この時点での成果や課題を発信する |
| 平成16年7月 | (モデル地域単位) ・第11回推進委員会 環境副読本の編集 1月の研究発表会の持ち方検討 | 環境副読本の活用方法、掲載内容についての確認をし、モデル事業との関連を図る |
| 平成16年8月 | (推進地区単位) ・「総合的な学習の時間」に関する教職員研修会 ・第12回推進委員会 環境副読本の編集 | 町の全教職員を対象に講師を招聘し講演会を実施 「総合的な学習の時間」の授業実践の充実を期す |
| 平成16年9月 | (モデル地域単位) ・第13回推進委員会 | 推進委員会においては環境副読本・単元展開事例の手引きの編集作業の遂行 |
| 平成16年10月 | (モデル地域単位) ・第14回推進委員会 | 各学校においては、中学校区単位で授業研究協議会(年4回)を開催し、研修を深める |
| 平成16年11月 | (モデル地域単位) ・第15回推進委員会 | |
| 平成16年12月 | ・第16回推進委員会 | |
| 平成17年1月 | (推進地区単位) ・第17回推進委員会 ・モデル地域「総合的な学習の時間」実践発表会 (町の教職員研究発表会を兼ねる) | 2年間の研究成果を発表 町内全教職員が参加 各学校から実践の報告を行い、成果と課題を確認する |
| 平成17年1月 | ・「総合的な学習の時間」モデル事業研究協議会(東京)での報告 | 2年間の研究成果のまとめ発信 事業報告冊子の発行 |
| 平成17年2月 | ・高畠町環境副読本(小学生用)完成 | |
| 平成17年3月 | ・研究報告書提出 | |